

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
施 設 名	仙台市青年文化センター	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	12,202	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	12,202	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	学校訪問ミニコンサート	令和2年11月17日～ 11月27日	出演：仙台フィルハーモニー管弦楽団	目標値	11,000
		訪問校の体育館		実績値	1,241
2	放課後ダンスワークショップ	令和2年8月～ 令和3年1月 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	240
		児童館、小中学校		実績値	— ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

仙台市青年文化センター（ネーミングライツ名称：日立システムズホール仙台）は、仙台市における舞台芸術文化の創造・発信の中核を担う施設として、「育成」「普及」「創造」、3つのミッションを掲げ事業を実施している。

音楽専用のコンサートホールと多目的のシアターホールを有し、コンサートホールでは当館を拠点とする仙台フィルハーモニー管弦楽団が定期演奏会を実施している。

令和2年度の劇場・音楽堂等機能強化事業採択事業として、普及啓発1事業を実施した。当初の予定では「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」として仙台市内の小学5年生と中学1年生全員を招き仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会をコンサートホールで鑑賞する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の対策のため、ひとつの会場に各学校の生徒を入れ替えながら鑑賞するやり方から、公募により選ばれた16の小学校をカルテットが訪れるミニコンサートに変更した。

規模が縮小し、施設外での実施となったが、より身近に音楽を鑑賞することができたと考える。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

コロナ禍により施設に人を集めることができず、大規模なオーケストラ鑑賞会はできなかったが、全く中止とはせずに学校訪問の形で子供たちに生演奏の鑑賞機会を提供することができたことで、興味、関心を持った子供たちが、オーケストラ鑑賞のためホールを訪れることにつながると考える。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

オーケストラ鑑賞会として仙台市内の小学5年生と中学1年生全員の11,000人を対象としていたが、新型コロナウイルス感染対策のため、学校訪問ミニコンサートに変更し、参加者は公募により選ばれた16校の小学5年生のみとなり1,241人(11%)にとどまった。

次年度も感染症が収束しない場合、オーケストラ鑑賞会から学校訪問ミニコンサートに変更する可能性があり、その際には鑑賞人数が少なくならないよう、期間を延長して回数を増やし、参加者数をなるべく維持するように努めたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初は前期を令和2年6月30日、7月1日、2日、3日、後期を8月26日、27日、28日として予定していたが、仙台市内の小学校でも新型コロナウイルス感染があり、学校行事が行えない状況になり中止が検討された。その後感染状況が小康状態になり、仙台市のガイドラインに沿った形で内容を再検討し、短期間で募集をかけ、令和2年11月17日～11月27日で実施した。感染状況に配慮しながら感染者が出ることなく無事に終えることができた。

オーケストラがカルテットになる等、規模の縮小により事業費は当初の一割程度に減少した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

音楽事業として、当館の音楽専用ホール「コンサートホール」の特徴を最もよく理解し、引き出すことのできるオーケストラ、仙台フィルハーモニー管弦楽団がコンサートを継続して開催するなど当館が仙台市における音楽文化の拠点を担うホールであること、また、すぐれた音響をもつホールであることをPRするとともに、クラシック音楽にあまりなじみのない新規客や、次世代の観客層を広げるための活動を展開している。

今回は新型コロナウイルス感染症の対策により当施設から各小学校の体育館に変更して実施した。予定とは異なるものの、子どもたちの日常の場に仙台フィルハーモニー管弦楽団のカルテット演奏を招き入れる形の鑑賞機会は、ホールコンサートとは違う感動を学校側に与えることができたと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

地域の若い世代に生演奏の鑑賞機会をコロナ禍にも関わらず途切れることなく提供することができた。

当初の計画から変更したが、地元の仙台フィルハーモニー管弦楽団の柔軟な対応により実施することができた。また、演奏者側にもコンサートの多くが中止になる中、演奏する機会を提供することができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

実施事業の検証・改善を目的に、外部人材の目を入れた評価を過去2年間にわたって継続してきたが、コロナ禍による事業の縮小、感染対策のため当年度は実施しなかった。次年度以降は市民のニーズ、世代間のニーズ差等の調査に力を入れ、事業計画に役立てていきたい。

また、当施設は大規模改修のため令和2年度10月より1年間の休館が予定されており、この期間を有効活用し、改修後の事業計画、劇場の機能強化についても検討していきたい。